

新庄市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当市は、全水田面積に占める水稲作付面積の割合が約72%超で、水稲への依存度が高く、転作作物においては、土地利用型作物である飼料作物、そば、加工用米や備蓄米の取組が多くを占めている。

主食用米の需要が減少する中、需要に応じた米生産の推進は重要であるが、加工用米の取組を見ると平成29年面積が350haであり、平成28年面積414haから64ha減少するなど不安定な状況にあり、加工用米から主食用米への転換による需給の不均衡が懸念される。

また、飼料作物や飼料用米等の需要が多いが、需要に見合う供給体制が整理されていないため、生産量も微増にとどまっている。

そのほか、そば、大豆については、排水不良、土壌酸度の不適正等により単収の低下を招いており、排水対策や土壌改良が必要となっている。

2 作物ごとの取組方針

市内の約4,916ha（不作付地等を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

（1）主食用米

売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、主食用米の生産を行う。また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図るとともに、担い手への大型機械の導入や直播栽培などの低コスト化に取り組み、所得の向上を目指す。

（2）非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物に位置づけ、地元需要者とのマッチングを図るなど流通体制の構築を進めるとともに、多収品種の導入や共同防除作業等によるコスト低減の取組の推進により、生産拡大を図る。

イ 米粉用米

主食用米の需要減が見込まれる中、米粉を使った加工食品の試作・研究が進められており、米粉用米の需要拡大が見込まれることから、作付の拡大を図る。

ウ 新市場開拓用米

主食用米の需要減が見込まれる中、今後大きな需要が見込まれる新たなマーケットの開拓を図る。

エ WCS用稲

稲作農家にとっては作りやすく、畜産農家には飼料価値の高い飼料作物であるが、所得の確保や新たな設備投資が必要なことなどの課題があるため、需要動向を勘案しながら、WCS用稲の作付を維持していく。

オ 加工用米

市内に主な需要者が無い事から、JA・集荷業者と実需者との結びつきを強化し、出荷契約数量の維持を目指す。また、産地交付金の追加配分枠を活用し、複数年契約による安定した取組を推進する。

カ 備蓄米

政府備蓄米の買入入札での落札による取り組みを維持する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、取り組まない。

大豆については、排水不良水田においては、弾丸暗きょ等による排水対策や土壌改良に取り組みながら、団地化及びブロックローテーションを継続し、作付面積を維持する。

飼料作物については、耕種農家と畜産農家の結びつきを強化し、需要に合った供給を行うため、作付けを維持していく。また、耕畜連携についても推進していく。

(4) そば、なたね

地域の実需者であるソバ店等との契約やJA等集荷業者との契約に基づき、栽培面積を拡大するとともに、品質の向上と生産量の増を図るため、排水対策に取り組む、産地交付金の追加配分枠を活用し、生産の拡大を目指す。

なたねについては、取り組まない。

(5) 高収益作物（野菜等）

園芸産出額のさらなる拡大と競争力の高い農業者の育成に向け、園芸品目の戦略的な産地づくりを支援することを目的として、重点振興作物、主要振興作物、振興作物を定め、特に重点振興作物については魅力ある産地づくり、ブランド化を図るため、産地交付金の戦略枠を活用して、作付面積の拡大を図る。

振興作物については、産地交付金を活用し、品質の維持向上を図る。

重点振興作物：にら、ねぎ、たらの芽、うるい、トルコギキョウ、アスパラガス
ふきのとう、りんどう

振興作物：さといも、みつば、おうとう、トマト、なす、きゅうり、ストック
啓翁桜、ラズベリー、ひまわり、すいか、にんじん

(6) 畑地化の推進

水田での畑作物栽培は、排水対策の問題や畦畔等による作業効率の問題があり生産性が低いため、畑地化により排水改善や作業効率の向上を図る。

3 作物ごとの作付予定面積 (作付面積ベース)

作物	H29年度の作付面積 (ha)	H30年度の予定面積 (ha)	H32年度の目標面積 (ha)
主食用米	2,846	2,838	2,800
飼料用米	88	88	100
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	3	3
WCS用稲	61	65	65
加工用米	350	370	400
備蓄米	219	130	130
麦	0	0	0
大豆	40	42	70
飼料作物	456	447	470
そば	383	381	400
なたね	0	0	0
重点振興作物			
にら	67	65	70
ねぎ	28	30	30
たらの芽	32	32	33
うるい	24	24	24
トルコギキョウ	7	7	7
アスパラガス	13	14	16
ふきのとう	2	2	2
りんどう	1	2	2
振興作物			
なす	12	12	12
おうとう	6	6	6
さといも	5	5	5
きゅうり	4	4	4
トマト(ミニトマト)	3	3	3
にんじん	0	10	20
みつば	1	1	1
すいか	6	6	6
ストック	0	0	0
啓翁桜	1	1	1
ひまわり	0	0	0
ラズベリー	1	1	1

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	現状値	目標値
1	重点振興作物	重点振興 作物助成	重点振興作物 作付面積	(29年度) 174ha	(32年度) 184ha
2	振興作物	振興作物助成	振興作物 作付面積	(29年度) 39ha	(32年度) 59ha
3	飼料用米生産 ほ場の稲わら	耕畜連携助成 (わら利用)	取組面積	(29年度) 25ha	(32年度) 53ha
4	飼料作物等	耕畜連携 (水田放牧)	取組面積	(29年度) 1ha	(32年度) 2ha
5	飼料作物等	耕畜連携 (資源循環)	取組面積	(29年度) 228ha	(32年度) 258ha
6	そば	そば振興助成	そばの作付面積	(29年度) 383ha	(32年度) 400ha
7	加工用米	加工用米複数年 契約助成	加工用米複数年 契約取組面積	(29年度) 111ha	(30年度) 111ha
8	飼料用米	多収品種 導入助成	飼料用米 作付面積	(29年度) 82ha	(32年度) 100ha
9	飼料用米	飼料用米多収栽 培支援助成	飼料用米 作付面積	(29年度) 88ha	(32年度) 100ha
10	加工用米	加工用米助成	加工用米 作付面積	(29年度) 350ha	(32年度) 400ha
11		畑地化の取組	取組面積	(29年度) 0ha	(32年度) 15ha
12	新市場開拓米	新市場開拓用米 取組助成	取組面積	(29年度) 0ha	(32年度) 3ha